

平成22年度第4回（第9期第4回）小平市廃棄物減量等推進審議会
会 議 次 第

平成22年12月14日（火）
午後2時00分～
中央公民館 学習室4

- 1 開会
- 2 事務局報告
- 3 小平市のごみの現状についての説明及び諮問事項の審議
- 4 その他
- 5 閉会

配付資料

- 1 小平市清掃事業概要 平成22年度版（平成21年度実績）
 - 2 ごみ・資源物の処理の流れ（平成21年度実績）
 - 3 年末年始のごみ・資源の収集について
-

会長	ただいまから、第4回目の会議を開催いたします。
事務局	本日は事務局からの報告、視察の意見交換、小平市のごみの現状について事務局からの説明の順番で会議を進めて、今後どういう議論をしていくかまで話し合いを進めていきたいと考えています。それでは、事務局報告をお願いいたします。 それでは3点報告させていただきます。 1点目としまして、クリーンメイト（廃棄物減量等推進員）第9期の会議が12月7日に開催され、2年間委嘱されました。新たな方4名を加えまして、43名の方をお願いすることになりました。クリーンメイトは地域の集積所の分別指導やパトロールなどが主な役割になります。クリーンメイトと市の協働事業として、11月にはマイバッグキャンペーンをいなげや学園西町店で開催し、クリーンメイトさん4名が参加しました。来週からは不法投棄監視ウィークを開催いたします。 2点目としまして、今年度も落ち葉のリサイクルを実施しています。地域センターに貸し出し用のリサイクル袋を用意して、地域の落ち葉の資源化に取り組んでいます。 3点目としまして、年末年始の特別収集について別紙のとおり広報を行っています。以上です。
委員 事務局	先日の焼却施設の爆発事故について説明してください。 9月29日に小平・村山・大和衛生組合の粗大ごみ処理施設で爆発事故がありました。原因は特定できていませんが、不燃ごみの中にスプレー缶などが混ざっていてそこから漏れたガスが施設内で充満して破碎時の火花で引火して爆発したと思われます。幸い人的被害はありませんでしたが、鉄の扉が曲がるほどのこれまでにない大きな爆発事故でした。修繕に1,400万円ほどかかっています。市では早速、市報やホームページで情報を発信し、収集業者にはスプレー缶の混入ごみに特に注意を促し、市では混入が見つかった集積所の周辺住民に文書で啓発を行っています。収集車両にはスプレー缶の排出について書いた黄色いマスクをつけて啓発しています。来年2月には市報特集号で啓発をする予定となっています。また、その後も収集パッカー車で火災事故がありました。幸いケガ人はなく、車両も無事でした。東大和市や武蔵村山市でも秋以降、同様な事故がありました。
会長	次の議題に移ります。第2回目と第3回目は視察を行いましたので、委員のみなさまの意見や感想をお願いいたします。
委員	寄井町の生ごみ堆肥化施設について、製品の受け入れ先を苦労しているということ、資源の還元がうまくできていないと思いました。オリックスのガス化施設について、2000℃で廃棄物を熔融して70℃まで下げる時に発生する膨大な蒸気をガス化といっしょに使っているということでした。発電した後の余熱エネルギーの活用はやっていないとのことでした。施設に安定してごみが入ってこないために、安定したリサイクルができていないという問題があります。
委員	大きな流れとして、少子高齢化でごみの搬入量は減っているということがあります。分別が進んでいる中で、家庭で行った分別の後にどういったリサイクルがされているのかがわかりにくい。再資源化施設では粗大ごみをバラバラにして鉄や木材に資源化していますが非常に苦労されています。今後も継続してやっていけるのか心配です。
委員	生ごみの収集について臭いがすごいという話がありましたが、生ごみをそのままにしているから臭いますが、これにおがくずや米ぬかをまぶすと臭いは出なくなるので、取り組んでもらいたい。

委員	オリックスのガス化施設について、巨大な施設を作ったときのコストは結構かかるのではないかと。あれが本当に望まれる形なのか。広域で集める場合は輸送による環境負荷が増えるなど問題がある。集中方式ではないほうがよいのではないかと。
会長	ガス化施設の維持費はごみの受け入れ料金で賄っていて、ガス化施設の最大のメリットは最終処分場がいないということです。最終処分場が近くにできれば一番安いですが、最終処分場ができるかできないかでガス化施設の価値が違ってきます。最終処分場が作れるならば、ガス化施設はぜひいたくだと思うわけです。また、熱効率を上げることやどのくらいの規模が最適かまだわからないことが問題としてあります。
委員 委員	効率的にごみを処理することが必要で、施設をどう活用していくかが問題です。
事務局	9月議会や新聞にも取り上げられていましたが、3市共同資源化施設の現状と進捗状況について説明願います。
事務局	小平市ではリサイクルセンターという中間処理施設があり、プラスチック製容器、ペットボトル、ビン、カン、有害性資源など6品目を選別、圧縮梱包して再資源化業者に引き渡すなどしていますが、今後の破碎施設や焼却施設のあり方、規模、効率性を決める上でも東大和市と武蔵村山市の3市で資源化共同施設を作り、統一的な資源化をすることが望ましいということで資源化共同施設の案が出ているわけです。担当者会議や市民懇談会で意見をいただきながら、3市と衛生組合を含めた4団体で話をしています。東大和市のリサイクルセンター施設用地を建設用地として基本方針の策定に向かって進めているのが今年度の状況です。ただし、東大和市からの意見で建設用地について検討したいという話があるために、基本計画案を作るのを待っている状況です。
会長	3市共同で焼却施設を持っているが、建て替えを考えるとときに、そこに持ち込むごみがばらばらだとどういう焼却施設にすればいいのか決まらない。だからリサイクルする分別方法を3市で統一した方がよい。そこまではよいが、どこに作る、どんなものを作るとなるとなかなか進められないということだと思います。
事務局	それでは配布資料に基づいて小平市のごみの現状について事務局から説明願います。
	<p><ごみ処理基本計画の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の構成について ・計画期間について ・ごみ量の数値目標について ・施策の実施状況と今後の方向性について ・排出状況、集団回収、生ごみ処理、容器包装プラスチック、製品プラスチックの現状と課題について ・前回の審議会での生ごみ資源化検討部会、容器包装検討部会、啓発推進検討部会の報告について ・市民・事業者・市で協働した循環型社会形成の推進について ・衛生組合及び構成3市の連携の強化について ・施策の展開スケジュールについて ・アンケート調査結果について ・パブリックコメントの結果について <p><清掃事業概要の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織と事務分掌について

- ・清掃費の予算・決算について
- ・一般廃棄物処理実施計画について
- ・ごみ処理量の推移について
- ・ごみ処理施設について
- ・し尿処理事業について
- ・資源回収量の推移について
- ・リサイクルセンターについて
- ・食物資源循環モデル事業について

会長

いままでの内容についての質問は次回受けたいと思います。次回は諮問事項を思い出してもらって本題の議論をしていきたいと思います。議論をどう進めるか、重点的に進めたいポイントを考えていきたいと思います。こんな資料がほしい、基本計画を作るに当たって盛り込みたい事項を来年度も継続して審議していきます。

事務局
会長

必要な資料があれば事前にご連絡願います。

次回は3月17日木曜日の午後2時からになります。本日はお忙しい中、ありがとうございました。これで閉会いたします。
